# 多元文化論系 2020 年度版

プログラム ・ ゼミ紹介

秋期　論系進級ガイダンス用

# 目　次


- 主任からのメッセージ
- プログラム紹介
- 論系スタッフ
- 2020 年度開講ゼミ
- 論系情報

# 主任からのメッセージ

## 日本から離れて日本を考える

井上文則

私の専門は、古代ローマ帝国の歴史です。古代ローマ帝国は、地中海を中心にヨーロッパ、アジア、アフリカにまたがる広大な領域を支配し、今から 1900 年ほど前に最盛期を迎えた国家です。

多元文化論系は、「英語圏文化」「ヨーロッパ文化」「アジア文化」「中東・イスラーム文化」および「国際日本文化論（JCulP）」の５つのプログラムから構成されており、様々な時代の世界各地の文化を哲学、宗教、歴史、文学など多角的な観点から学ぶことができます。なお、プログラムというのは、科目履修の際の目安であり、いずれかのプログラムに属して、集中的に特定の文化を学ばなければならないということを意味しているのではありません。特定の文化を学びたい場合にプログラムに配された科目を取っていけば、体系的にそれを学ぶことができるという意味です。私の場合、プログラムでいえば、ヨーロッパ文化論プログラムに属しており、地中海文化論ゼミを担当しています。

今年度、私は必修基礎演習を担当しましたが、１年生の皆さんの関心のありかを知るよい機会になりました。受講生が最終レポートのテーマに選んだのは、その多くが身近な現代日本の社会問題に関することでした。例えば、ルッキズム（外見至上主義）、子供の虐待、SNS 上のなりすましといったテーマです。私が研究しているような、現代日本から時間的にも、空間的にも遠く離れたテーマを選んだ人は一人もいませんでした。１年生の皆さんの関心のありかを知って、私は皆さんが現代の日本社会に強い関心を持ち、そこで生起する諸問題を解決したいという高い志をもっておられることに感心しましたが、一方でもう少し現代日本の社会問題から距離をとって、この論系で学ぶような世界各地域の文化を勉強されてもよいのではないかとも感じました。このような勉強は、いろいろな意味で余裕のある大学時代にしかできないことですし、すぐには役立たないかもしれませんが、長い目で見れば、きっと皆さんの視野を広げ、その後の人生を豊かにしてくれるはずだからです。そして、結果的に、皆さんの関心ある現代日本の社会問題の本質が、日本から離れることでよりよく見みえてくることになるでしょう。

ぜひ多元文化論系にお越しください。歓迎いたします。

# プログラム紹介

2017 年度から「英語圏文化プログラム」、「ヨーロッパ文化プログラム」、「アジア文化プログラム」、「中東・イスラーム文化プログラム」、「国際日本文化論プログラム（Global Studies in Japanese Cultures Program＝略称 JCulP）」の5つのプログラムに再編されました。

多元文化論系では、ほかの論系とは違って、教員やゼミがどれか一つのプログラムに所属するという形は取っていません（JCulP を除く）。学生の皆さんは複数のプログラムから自らの関心に合わせて自由に履修科目を選択することができます（JCulP の科目も含む）。

## 英語圏文化プログラム

明治期日本の先覚者たちの多くは英語を通して外国文化を学び、英語で日本からの文化的な発信を行いました。21 世紀の今、英語圏世界は地理的にも大きく広がり、私たちが受容する文化もハイカルチャーから民衆文化まで広範囲に及びます。先人の進取の気概を継承しつつ今この時代に固有の課題に取り組もうとする人たちに、本プログラムは多様かつ必須の科目群を提供します。また、日本からの発信力を養う上で、英語教育のあり方を検討しつつ総合的な英語能力の向上をはかることは不可欠ですが、それもまた本プログラムの重要な目標となっています。

## ヨーロッパ文化プログラム

地中海の古典的な文化を基礎とすることなしに今日のヨーロッパの文化はあり得ません。また、そのヨーロッパの文化は、周辺世界からも多くのものを吸収し、ときに対峙しながら発展を見てきました。ヨーロッパ世界とその周辺世界とを並べてみても、それらの間の微妙な移り変わりと重なり合い、そして、差異の存在にあらためて私たちは気づかされます。それらの世界の歴史的・地域的に多様な要素を認識しつつ、時間的・地域的差異と共通の要因を見きわめていくことは、現代の日本社会の問題をグローバルな視点から考えるうえでも必須のことと言えるでしょう。

# アジア文化プログラム

現在の世界情勢のなかで、アジア諸地域の間に互いの文化や歴史に関する深い相互理解を形成することは、極めて緊急性の高い重要な課題です。アジア文化プログラムでは、この課題をみずからのものとして引き受け、日本を含むアジア地域における、古代から近現代に至る文化の諸事象や古典の叡智、文化交流について、文学・言語・思想・政治・宗教・社会・芸術・歴史学などの諸分野を広く視野に収めつつ、多角的にアプローチします。時には原典資料にあたりながら、複雑に入りくんだアジア世界の多様性・多元性に向きあい、そこに宿る個別性・普遍性について深く考察することを目指します。

# 中東・イスラーム文化プログラム

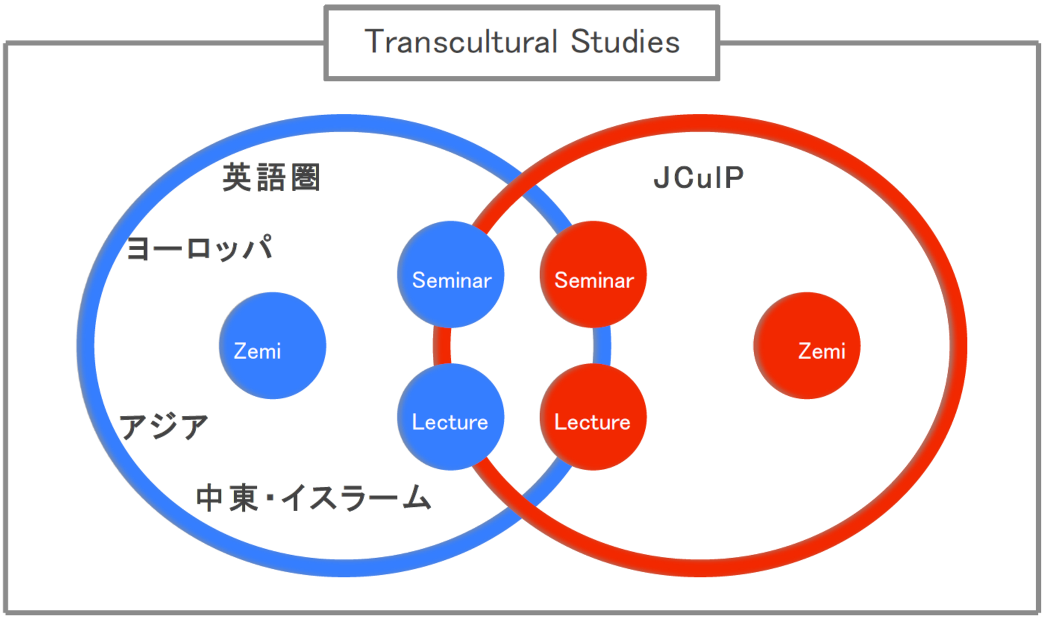
【2017 年度から新設】

このプログラムでは、中東・イスラームに関する知識を深めるとともに、氾濫する情報を見極めるリテラシーを養い、この世界の過去・現在・未来について考察することを目標とします。そして、「中東」や「イスラーム」に関連することであれば、何でも研究テーマにできます。その「中東」と「イスラーム」ですが、「中東」は地域概念であり、その中に暮らすキリスト教徒・ユダヤ教徒など、イスラーム教徒以外の社会も研究対象となります。一方、「イスラーム」は宗教であり社会システムですので、それに関連することであれば、欧米でも、中南米でも、南・東南アジアでも、アフリカでも、東アジアや日本でも、地球上を研究対象とできます。それらの歴史・文化・社会について、国際的視座から深く掘り下げます。

# Global Studies in Japanese Cultures Program（JCulP）
# 国際日本文化論プログラム

【2017 年度から新設】

日本文化を世界的な視野のもとに学び、かつその成果を広く世界に向けて発信できる人材の育成を目指して発足したプログラムです。日本学生は英語で教授される授業のみで卒業要件を満たすことを原則としますが、他の授業を履修することもできます。海外学生は日本語を学びつつ、英語で教授される専門科目の履修によって卒業要件を満たすことが可能ですが、もちろん他の授業も履修できます。どちらも、文化構想学部の特性にのっとって、日本文化だけでなく様々な文化や学問を学ぶことも可能です。



# 論系スタッフ（2020年度）

## 多元文化論系専任教員

### 安藤　文人　*ANDO Fumihito*（JCulP）

比較文学、ナラティブ研究

### 伊川　健二　*IGAWA Kenji*

中近世日本と外部世界の関係史

### 井上　文則　*INOUE Fuminori*

古代ローマ史

### 小田島　恒志　*ODASHIMA Koshi*

現代イギリス小説、現代英米演劇、翻訳論

### 垣内　景子　*KAKIUCHI Keiko*

朱子学、中国近世儒学、東洋倫理思想

### 河野　貴美子　*KONO Kimiko*

東アジア文化交流

### ☆佐藤　尚平　*SATO Shohei*

中東地域研究（アラビア半島現代史・湾岸現代史）、

イギリス帝国史研究

## 高井 詩穂　*TAKAI Shiho*（JCulP）

日本古典文学、近世芸能、比較文学

## 高屋 亜希　*TAKAYA Aki*

中国近現代文化

## エドワード・チャン　*Edward CHAN*

American literature, film, and culture

## 中澤 達哉　*NAKAZAWA Tatsuya*

東欧史、スロヴァキア史、ハプスブルク帝国史、ナショナリズム・スタディーズ

## タニア・ホサイン　*Tania HOSSAIN*

英語教育学（社会言語学、応用言語学）

## パウ・ピタルク・フェルナンデス　*Pau PITARCH Fernandez*（JCulP）

日本近代・現代文学、比較文学、物語論

## 源 貴志　*MINAMOTO Takashi*

19 世紀ロシア文学、日露文化交流史、ロシア出版文化

## 森 由利亜　*MORI Yuria*

中国宗教思想（道教、民間信仰）

由尾　瞳　　*YOSHIO Hitomi*（JCulP）

日本近代・現代文学、ジェンダー研究、翻訳、比較文学

吉原　浩人　　*YOSHIHARA Hiroto*

日本宗教思想史、東アジア文化交流史

渡辺　愛子　　*WATANABE Aiko*

イギリス地域研究

＊スティーブン・ライアン　　*Stephen RYAN*

英語学、外国語教育、教育心理学

## 講師（任期付）

小二田　章　　*KONITA Akira*

近世中国史、宋代以降の地方誌編纂、
東アジアの地方史誌編纂

## 助手

杉田　貴瑞　　*SUGITA Takayoshi*

19 世紀イギリス文学

寺嶋　雅彦　　*TERASHIMA Masahiko*

哲学、初期近代西欧思想史・科学史

# 2020 年度開講ゼミ

## 異文化受容論ゼミ

小田島　恒志
odashima@waseda.jp

外国の文化に触れるには、単に情報伝達を目的とした媒体以外にも、様々な機会、方法がある。それは、たとえば文学、演劇、映画、音楽、絵画などのように、知識としてではなく直接感性に訴えてくる場合もある。だが、その感性の持ち主がもともと異文化を背景に持っている以上、その伝わり方はどこまで有効なのだろうか。本国の人々が感じているものと同じ感覚で受容しているとは到底言えないのではないだろうか。

では、100%同じように感じることができないからと言って、それは無駄な行為かといえば決してそうではない。日本人が日本の文化を背景として外国文化を受け止める場合、それがプラスに働くこともあり得るだろうし、伝えようとする人間は、それを効果的に活用する場合もあるだろう。

担当教員自身は英語文化圏の演劇や小説の翻訳作業を通して常に上のようなことを考えている。たとえば、南アフリカの作家アソル・フガートの戯曲を日本で上演した際には、原文から読み取れる様々な文化をいかに日本語のセリフで表わせるか様々なレベルで苦心したが、演劇の場合、言葉で表わしきれない要素を、舞台美術や演出の力で見せることも可能であった。もちろん役者の技量によるものも大きい。とは言え、英語で書かれた原文の中にアフリカーンス語が織り込まれている部分に関しては、さすがに伝えきれたとは思っていない。また、アメリカの作家キャムロン・ライトの小説『エミリーへの手紙』の翻訳では、言葉遊びが重要な要素となっていたのだが、これは直訳するわけにはいかず、いろんな意味で原文を裏切らざるをえなかった。

このように、異文化理解と受容が起こる実際の場(たとえば翻訳)において、とりこぼされる要素と、それに対して伝達者(たとえば翻訳家)がいかに工夫を施しているか、実際の作品を通じてのリサーチと、より効果的な伝達／表現法の更なる可能性を模索、提示することが本ゼミの目的である。

# アメリカ文化論ゼミ

American Studies

エドワード・チャン
edwardkchan@waseda.jp

(NOTE: This seminar will be taught by Professor Steven Karl during the Fall 2021 semester, and the class will meet on Mondays during 3rd period.) The seminar will be an introduction to American studies, which is an interdisciplinary field of study focused on various aspects of American culture. We will organize our study of America around key topics (many of which are overlapping), such as national identity, race and ethnicity, class, gender, sexual orientation, disability, globalization, immigration, regionalism, foodways, consumerism, power and authority, countercultures, and so on. The seminar will emphasize "active learning," meaning students are expected to actively contribute to the class through participation, discussion based on homework assignments, presentations, among other things. The objective is to prepare students for researching and writing the graduation thesis.

Some things for you to consider if you are interested in this seminar:

1) You should be willing to speak, write, and listen in English, as the course will be entirely in English.
2) You should be prepared to participate in discussion (in other words, talk, think, and listen) every week.
3) You should be prepared to do work outside of class (i.e., homework), including reading, writing, and preparing presentations.
4) You should be prepared to learn and conduct academic research in various forms.
5) You should be prepared to write your graduation thesis entirely in English, including doing research in English. The topic of the thesis must be related to American culture.

# 言語・文化・英語教育ゼミ

## Language, Culture, and English Education (LCEE)

タニア・ホサイン
kstania2@waseda.jp

Language is not only a means of communication but it is also a social phenomenon which is closely tied up with social structures and values. Language is indissolubly linked with the members of the society in which it is spoken, and social factors are inevitably reflected in their speech. English is currently regarded as the world's principal international language. It performs a useful function in the multilingual society. People are not forced to master English at all costs. There are people who adopt English and use it alongside their own culture, and combine it with. In this class we will look at how English varies around the world as well as at issues that affect language usage such as age, gender, and class. Difference among countries as well as within countries will be considered.

At the same time, language and culture are deeply related in many ways, and languages influence human values and the culture in which they are born. Culture strongly influences how an individual approaches education, and a society's culture determines how that society educates its citizens. Because culture consists of values and beliefs that influence practices, students are more likely to engage in education that aligns with and includes their cultural identity. Culture refers to the core beliefs and customs of a particular group of people, and it can be observed in many aspects of their lives, such as their language, food, clothing, religious ceremonies, symbols and history. In many cases, culture is associated with family origins, race, ethnicity and geographic location, but culture can also be gained by choosing to identify with a specific group. Learning a language other than your mother tongue also increases your opportunities to come into contact with information about different cultures and diverse values and ways of thinking. It goes without saying that English as an international language in particular opens up opportunities for access to diverse cultures.

This seminar examines English language issues at societal and global levels. It discusses the historical context of the global development of English, status of English as a first and second language, and issues involving English that are currently developing in and across diverse societies. This seminar will help students to understand the educational systems, successes, and problems of different countries. It will also show how education creates inequalities in the society.  This seminar is useful for students who want to work in international organizations, interpretation/translation, and foreign language education after graduation.

# イギリス・アイルランド・英連邦諸国ゼミ

渡辺　愛子
aiko@waseda.jp

本ゼミでは、イギリス、アイルランドという地理的に近接した地域だけでなく、英連邦諸国、すなわち「大英帝国の旧植民地」という、歴史上で政治的に構築された諸地域を扱います。そこでは、小説、詩、戯曲、映画、サブカルチャーなどに表れた国や地域、時代、政治、民俗、思想などを映し出す文化的表象を具体的に検証していくことになるでしょう。ゼミ生は、上に挙げた研究領域やさまざまな研究手法から、それぞれテーマや材料を決めてリサーチを行い、発表をもとにした個人単位の作業と、これを踏まえた比較、ディスカッションによる共同作業を行います。こうした作業を通して、単純に「英語圏文化」とひと言では括り得ないその多様性、特殊性、差異に注目し、同時に普遍的な側面を特殊事情と見誤ることのないよう、広い視野に立った議論を展開できる思考力を養い、最終的に個々のゼミ論文という形で結晶化させることが、各履修者に望まれます。

昼間のゼミ論報告会
ではしっかり勉強！
夜は楽しく親睦会。

# 地中海文化論ゼミ

## 古代ギリシア･ローマの歴史と文化

井上　文則
finoue@waseda.jp

ゼミの担当者である井上は、古代ローマ帝国の歴史を研究しています。特に軍人皇帝時代（235 年～284 年）と呼ばれる混乱期のローマ帝国の政治史と、同時代に流行したミトラス教という宗教に関心を抱いています。ミトラス教のほうは、聞きなれないかもしれませんが、これは牡牛を殺す独特の姿で描かれるミトラと呼ばれるペルシアの神を崇拝する宗教です。ミトラス教は、古代において、キリスト教の最大のライバルであったとも考えられています。

担当者の関心は以上のようなものですが、このゼミでは、古代ローマだけではなく、古代ギリシアを含めて、広く地中海の古代世界に関心がある方であれば、歓迎します。ゼミでは、各自が関心を持ったテーマについて発表しつつ、ゼミ論文作成に向けて勉強していきます。

# ヨーロッパ文化論ゼミ

中澤　達哉
tnakazaw@waseda.jp

2018 年春に開設されたヨーロッパ文化論ゼミは、ナショナリズム（国民主義、民族主義）、愛国主義、ナチズム（ネオナチ含む）、難民、移民、マイノリティなどの、近現代ヨーロッパの諸問題とその歴史に関心のある人が集まっています。もちろんナショナリズムに限らず、広くヨーロッパ文化に関心をもつ人も大歓迎です。

参考までに、これまで指導したことのある卒業論文を記します。イングランドにおける女性の王位継承、フランス革命、魔女狩り、神聖ローマ帝国の紋章、ハプスブルク帝国の民族問題、マリー・アントワネットとマリア・テレジア、スペインの言語問題、フリードリヒ 2 世の軍制改革、グリム童話とロマン主義、東欧のナショナル・シンボルの誕生、ロックンロールの誕生、ウィーンのカフェ、第一次世界大戦、ナチスのホロコースト、日欧歴史教科書比較、戦後ドイツのユダヤ人、シリア難民と EU など、おもに近世以降の歴史と文化です。

春学期のゼミは、皆さんの関心に応じていくつかのサブゼミに分けます。現在、「イギリス・サブゼミ」「フランス・サブゼミ」「ドイツ・サブゼミ」「イタリア・サブゼミ」「スペイン・サブゼミ」があります（将来的には、「東欧・サブゼミ」や「北欧・サブゼミ」も設置可能です）。各サブゼミは 3～6 名いて、ひとつのテーマを共同で分析し、春学期に 3 回発表をしてもらいます。その成果をもとに、秋学期には個々人にわかれ、卒論テーマを考えていきます。卒論を考える最初の機会が国内の夏合宿です。合宿は春にもありますが、外国での合宿も現在検討中です。懇親会も盛り上がる明るいゼミです。なお、3 年生と 4 年生のゼミ目標は以下の通りです。

【3 年生】なぜ二つの世界大戦はヨーロッパで始まったのでしょうか？ なぜ近現代ヨーロッパの人びとは国民や民族（ネイション）のために命を賭してまで戦いあえたのでしょうか？ このような問いをたてるとき、必ず議論となるのが、そもそもヨーロッパの国民／民族は太古の昔から存在する共同体なのかどうか、あるいは、近代以降に創られた人工物なのかどうか、という論題です。現在の学説はふたつに割れています。前者は、国民／民族の起源を古代に置き血縁的・社会的連続性を重視する「原初論系本質主義」です。後者は、18 世紀の産業革命に際して国民／民族が構築ないしは捏造されたと理解する「近代論系構築主義」 です。主にE・ゲルナー、B・アンダーソン、E・ホブズボーム、A・スミスの学説を学び、近世後期以降のヨーロッパ文化を考察する際に必要な観点や諸学説の整理の仕方など、総合的な分析力を高めます。

【4 年生】1980 年代以降のヨーロッパ・ナショナリズム研究は、近代論と原初論ないしはエスノ象徴主義という図式のもとで論争が繰り広げられ、文化人類学・社会人類学・民族学・政治学・社会学・歴史学の領域を超えて世界レベルで深化しました。しかし現在では、こうした盛況もいささか昔日のものとなりました。なによりも注視しなければならないのは、原初論・近代論ともに理論的な限界が指摘されはじめていることです。

4 年では、両学説の内実を詳細に検証し、その利点と問題点を史料分析も交えながら把握します。これによって、文献を解読する際に必要な実証力や諸学説の整理の仕方など、総合的な研究力をさらに高めます。そのうえで、ナショナリズムのほか、愛国主義・自民族中心主義・排他主義・難民問題・移民問題・地域主義・EU の今後まで考えていきます。

# ユーラシア文化論ゼミ

源　貴志
minamoto@waseda.jp

当然のことながら、「ユーラシア文化」論などという大それた学問分野が存在し、このゼミでそれを専門的に扱うというわけではない（個別の研究としては、言語学・歴史学等においてそういうアプローチも存在するが…）。ここには、キーワードとして「ヨーロッパ」「アジア」「文化」があるのみである。

「ヨーロッパ文化プログラム」「アジア文化プログラム」「中東・イスラーム文化プログラム」「英語圏文化プログラム」というプログラムの枠をはみ出るような関心、あるいは、「ヨーロッパ文化プログラム」の範囲のなかであっても、ヨーロッパという枠に必ずしも収まらない、広く（現時点ではそれが「浅く」でもかまわない）旺盛な知的関心に、できるだけ柔軟な対応のできるゼミであることを目指す。

したがって、専門的なテーマをかなりの程度まで（それぞれに多元的・複合的な関心を擁しつつ）掘り下げることを前提とするような性質のゼミと比較した場合（とくに特定の言語の資料の読解等々といった面にかかわって）専門的指導という点において、十分なものを保証できないかも知れない。

いずれにせよ、単一の文化の問題への関心に収斂することがなく、なおかつ、一定の範囲のテーマに関心を絞りきることのできない人びとの集まり、したがって、相当に多彩な話題の展開するゼミにならざるを得ないものと思われる。しかし、一方ではそこが狙いどころでもあって、いわば、ゼミそのものが、個性的な学生が集まっての「〈異文化〉接触」の現場となることが想定されている。

担当教員（源）自身は、ロシア文化（なかでも 19 世紀リアリズム文学）を研究の中心に据え、ロシア文化とヨーロッパ近代文学・芸術との関係、日本とロシアの文化的関係（江戸時代の日・露・欧間の外交関係・文化的交流、洋学と江戸期の芸術の関係、日本近代文学とロシア文学、ヨーロッパ・ロシア・東洋3者間の、近代以降の文学・芸術・思想・学問の交流・相互影響関係など）を日頃関心の対象としており、とくにロシア語・ロシア文化やロシア出版メディア論などについては、大学院入学レベルの専門的指導が可能であるが、このゼミに関しては、このような担当教員自身の専門的守備範囲にはまったくこだわらない。

ゼミにおいてとりあつかう分野は、文学・芸術・思想・学芸・メディア等々、いずれであってもかまわない。ロシア語以外の言語（東洋、西洋を問わない）については、ゼミ生それぞれが履修する文化構想学部の演習科目や選択外国語科目での研鑽に依存せざるを得ないが、ある程度、ゼミ生自身の焦点が定まれば、それに応じて担当教員も精力的に勉強させてもらおうと考える。
いずれにせよ、多彩な話題と柔軟な発想、また、それらをゼミに集まった〈他人〉=〈他文化〉同士のコミュニケーションによって深めて行くことを信条としたい。

**◆ 2年間のゼミを通しての目標は、担当教員（源）よりも、ゼミのメンバーに対して説得力を持ったと自負できるようなゼミ論文を書いて、その達成感を得ることにおいています。なお、当ゼミでは、原則としてゼミ論文のタイトルを、雑誌『多元文化』に氏名とともに公表することを前提としています。**
**◆ 現代における異文化というだけではなく、広い意味で歴史的な観点を持ちつつ、古く伝統的なものも異文化理解の対象として考えることのできる人たちに集まってもらいたいと思います。**

夏合宿（伊豆高原）の一コマ

誕生日サプライズ！――当人（源）は所用で欠席……

# 日本文化史ゼミ

伊川　健二
igawa@waseda.jp

　このゼミは、日本史、とりわけ文化史の諸問題を広範に探求、議論する場所として、2017年度に新設されました。ここにいう「文化」は、芸術や文学などの狭義に留まらず、特定の社会で共有される生活様式に含まれる内容全般といたします。時代は古代から現代まで問いませんが、歴史系のゼミとして、時系列にそって事象の推移を追求する方法をとっています。開講時限は木曜5限です。シラバス上の時間は5限ですが、発展的、または個別的な指導を6限におこなうことがありますので、受講者はなるべく6限を空けておくことをお勧めします。

　受講者の関心はさまざまで、たとえば今年度の4年生は足利義持、能狂言と歌舞伎、禅僧と禅画、妖怪画、漫画の起源、箱根関所、江戸文字、川越城、武士道の変遷、民芸運動、百貨店、満蒙開拓、フェミニズム運動、博打、月と日本文化など硬軟とりまぜて、さまざまな関心が語られています。

　このほか、大学院進学希望者などには、6限の時間を使用して、和製漢文の読解などを基礎から学ぶ機会を提供しますし、希望があれば大学院生と合同の研究会を紹介し、より高度な学習意欲に対応します。

　イベントは、年度始めの懇親会（写真）のほか、昨年度は大相撲観戦、築地市場見学、歌舞伎幕見を実施しました。今後も江戸文化に関わるものを中心に、受講者の関心にあわせて、適宜実施していく予定です。また、学外の関係者による、日本文化または就活に関する講演もおこっています。

このような枠組みのなかで、受講者は極力自由に問題を設定し、発表や議論を通じて考察を深めていきます。社会人としても必要な資質である論理的な思考力を養うとともに、学問としての歴史学の方法論に触れ、論文の完成を目指します。

【3年生・2020年度の予定】

春期：　前半は、まずは発声練習として、自己紹介と津田左右吉『文学に現はれたる我が国民思想の研究（1～8）』（岩波文庫版、1977～78年）に関する簡単なまとめを発表します。後半は歴史学の基礎となる「史料」について、参考文献を発表形式で輪読することで理解を深めるとともに、論文にする課題を模索していきます。

秋期：　夏季休暇中に各自の研究関心を確定させます。秋期には、関係する研究史をまとめ、文章化して発表し、論文執筆の基礎とします。可能であれば、論文全体の構成を提示し、関連する原典史料情報を収集、読解を進めます。

【4年生・2020年度の予定】

春期：　ゼミ論文の全体構成（章立て）をイメージし発表をします。可能であれば、そのなかで独自性を形成する論点について発表をします。

秋期：　ゼミ論文の全体構成を確定させ、とくに独自性を形成する論点に焦点をあてて発表をします。論文（800字×25枚以上）執筆を具体化させ、その過程で生じる具体的な諸問題を、個別指導を中心に検討し、論文の仕上げを支援します。

# 東アジアの生命観と倫理ゼミ

東洋で「哲学」しよう

垣内　景子
kakiuchi@waseda.jp

このゼミは、東洋の伝統的な思想を読み解くことを通して、現代の東アジアに生きる自分たちのものの見方や考え方、倫理観や価値観を支えているものを見つめ直し、これからの時代に向けて新たな世界観を模索すること、すなわち「哲学」することを目標としています。ここにいう「哲学」とは、過去の様々な思想や世界観を知ることを通して、自分自身が当たり前だと思っているものを見つめ直し、未来に向けてより良くより快適に生きていくための新たな考え方を創り出していくことです。

ところで、「東洋に哲学はない」と言われることがあります。しかし、東洋に生きる人々にも様々な思想的営みがあり、それぞれの時代や地域ごとに新たな世界観を創り出してきたことは言うまでもありません。「哲学」が西洋だけのものであるとするならば、それはむしろ「哲学」の限界を示すものであり、「哲学」を越えるより普遍的な何かを私たちは東洋から創り出していくしかないのです。とはいえ、西洋の「哲学」を東洋の私たちがどのように受け止めてきたのかということも改めて考えてみなければならないことで、その際最も注目すべきなのは様々な横文字の概念を翻訳するために使われた漢語です。

たとえば、「哲学」という言葉は、西洋由来の philosophy を受け止めるために、明治時代の私たちの先人が新たに創り出した和製漢語です。philosophy は当初「理学」あるいは「窮理学」と訳されていたのですが、「理学」とは東洋思想の文脈では朱子学のことでした。また、私たちの先人は西洋由来の様々な学問名称を翻訳するために朱子学のタームであった「理」の字を用いました。「物理学」「心理学」「倫理学」「地理学」……、今日なお使われているこれら「○理学」という学問名称の「理」とはそもそも何を意味するものなのか、私たちが漠然とイメージするものと朱子学の「理」は同じものなのか、そうした反省をしてみることは、私たちが暗黙の前提としている学問観を洗い直すことにもつながります。さらに言えば、朱子学も「理」も、日本人にとっては中国由来の外来のものであり、それを私たちは日本という土壌でどのように受け止めてきたのかということも考え合わせねばなりません。

本ゼミでは、皆さんそれぞれの素朴な関心を出発点にし、それをゼミ内での対話を通して拡大・深化させ、ゼミ論作成に向けて適切なテーマ設定を行います。あわせて、原典を読み解き、自分たちの言葉に訳していくという哲学研究の基礎作業を体験します。具体的には、孔子の言行録である『論語』や朱子の語録である『朱子語類』を読み、そこに登場する様々な概念や世界観を、原語である漢語から自分たちの言葉に訳していく作業を通して、私たちが日常使っている言葉の意味を問い直します。

「哲学」に興味がある人、東洋の伝統的思想に関心がある人、日本人の思想について掘り下げて考えてみたい人、漢文訓読の力をつけたい人、自分たちをとりまく様々な問題について語り合いたい人、そんな人の参加を期待しています。

# 漢字・漢文文化ゼミ

河野　貴美子
kono@waseda.jp

本ゼミが掲げる「漢字・漢文文化」とは、中国を中心として朝鮮、日本など東アジア諸地域に及んだ、漢字・漢文を基として展開してきた学術・文化全般を指していうものです。本ゼミでは、既成の学問の枠組みにとらわれず、古代から現代に至るまでの日本、中国、朝鮮など東アジア各地域におけるさまざまな文化現象を漢字・漢文文化への視点を軸にして考察し、魅力ある新たな東アジア文化論を展開していきたいと考えています。例えば、日本の「仮名文」の世界から「漢字・漢文」の存在意義を考えてみたり、西洋の言語との比較から「漢字・漢文」世界をとらえかえしてみたり、いろいろなテーマが考えられます。履修者の皆さんには、さまざまな発想、発言を期待したいと思います。

東アジア地域は、かつて漢字・漢文を共有したことにより、世界的にみても独自の文化圏を形成してきたといえます。授業では、日本を含む東アジア地域共通の文化基盤となっている「漢字・漢文文化」について、その本質、特質、意義、問題点をさまざまな角度から考察することを目標にすえ、具体的には、漢字・漢文文化に関する先行研究を検討、分析するとともに、実際の作品・文献の輪読も行います。また、ゼミ論に向けての準備を進め、構想発表を行っていきます。

2018 年 9 月 19 日～20 日　鴨川にて

➢3 年生は、ことばや文字、文化史などに関する研究書の講読や論文の分析を行ったり、関連するトピックについて調査・発表を行うとともに、各自ゼミ論文のテーマをしぼっていきます。

➢4 年生は、ゼミ論文の構想を固め、ゼミ生同士でのディスカッションを通して考察を深めながら、論文の執筆を進めます。

➢ゼミ論文テーマの例：
カタカナ語は日本語か――日本人の思想的背景から――／「活字」から「フォント」へ　和文印刷史からみる書体概念の変遷／国語教育における新時代の教育的アプローチ――「アクティブ・ラーニング」は本当に有効なのか――／漢字学習の将来を周辺環境のデジタル化から考える／雅楽とはなにか――時代を超えて変化する音楽のかたち――／日韓関係と相互認識／中国・台湾の葬儀／酒と人のつき合い史

➢ゼミ合宿や博物館見学をかねた文化散歩などの実施も予定しています。

# 現代中国文化論ゼミ

**華人の視点で世界を見てみよう**

高屋　亜希
akit@waseda.jp

現代中国の 100 年におよぶ歴史は、絶え間ない戦争や政治運動により、多くの人々が故郷からの移住、分断といった体験を余儀なくされてきました。また改革開放以降も、自己実現のチャンスを求め、農村から都市へ、内陸部から沿海部へ、さらには海外へ移住する流れは止まりません。その一方、近年発展めざましい中国に海外から帰国する流れも顕著になっており、現代中国社会および現代中国文化は、そうした移動という相のもとに考える必要があるでしょう。

このゼミでは大陸地域だけでなく、台湾や香港、さらには日本や東南アジア、遠くアメリカやヨーロッパなど、中国から移住した人々が移住先の諸地域で果たしてきた社会的役割や文化的営為も視野に入れていきたいと思います。その上で、そうした諸地域との交流のもとで展開してきた、現代中国の小説・映画・演劇・音楽など、さまざまな文化現象について一緒に考え、理解を深めていきましょう。

- 中国語の履修は必須ではありません。しかし、日本語資料だけで現代中国について考えることは難しく、ゼミ論のテーマも自ずと限られてしまいます。中国語資料を使うことができれば、自分の力で中国に向きあい、考えることができます。

- ゼミは 3 年生と 4 年生が合同で行っています。3 年生は共通テーマと課題図書を決め、全員で講読しています。2017 年度と 2018 年度は「中国のメディア」を共通テーマにしました。柴静著、鈴木将久他訳『中国メディアの現場は何を伝えようとしているか――女性キャスターの苦悩と挑戦』(平凡社、2014 年)、西茹『中国の経済体制改革とメディア』(集広舎、2008 年)などを読みながら、中国のメディアが事件や人々にどう向き合い、何を報道したのかという具体的な試み、その背景となるメディアの制度や社会事情について理解を深めました。
- 2019 年度は「日本華僑社会」をテーマに、伊藤泉美『横浜華僑社会の形成と発展――幕末開港期から関東大震災復興期まで』(山川出版社、2018 年)などを読んでいます。秋学期には横浜中華街などへ文化散策に出かける予定です。

- ゼミ論は各自やりたいテーマを見つけて取り組んでもらいます。3 年生は1月までにゼミ論のテーマを決めて、先行研究のリストを作ってもらいます。4 年生はゼミ授業で途中経過を報告してもらう他、草稿の提出、書き直しの過程を経てゼミ論を完成させます。3年生と4年生が一緒に議論することで、互いに視野を広げ、関心を掘り下げていくことを期待しています。
- 過去に提出されたゼミ論のテーマは文学、映画、アート、スポーツ、メディア、広告、教育、都市政策、食文化、ゲームなど。2018 度卒業生のテーマも世界各国の SARS 対応、一人っ子政策の歴史、中国国産車生産の歴史と現状、日韓ゲーム文化の歴史など、多岐にわたっています。

中国について何の知識もないところからゼミに入り、1 年間中国に留学。現地で培った語学力と人脈を活かし、雲南省の農村でフィールドワークをしてゼミ論をまとめ、中国関係の商社に就職した学生もいます。自分がその気になりさえすれば、思いもよらなかった世界の扉が開く。大学生の時にこそ新しいことに挑戦してみましょう。

# 思想文化論ゼミ

吉原　浩人
yoshi-w@qa2.so-net.ne.jp

本ゼミは、日本もしくは中国・台湾・韓国・ベトナムなど、漢字文化圏における前近代の思想・宗教・文化・芸術などに興味を持つ学生を対象に設置します。あることを学ぶためには、やみくもに進むのではなく、回り道のようですが、あらかじめ全体像を知っておくと、結果的に時間を短縮することができます。つまり、ある宗教なり作品なりが、どのような世界観やしくみで成り立っているかを知っておくことが、肝要になります。さらに、あることを議論するためには、対象となるテキストを精確に読解することが前提になります。このゼミでは、そのためのノウハウを提供していきたいと思います。

３年生は、漢字文化圏の文献を読解するための基礎として、漢文訓読体の説話集を輪読します。具体的には、『今昔物語集』本朝部（巻 11～31）のうちのある巻を、受講生の希望を聞きながら選択して、一回に一話ずつ、学生の発表とそれに基づく討論を中心に進めます。また、辞書の使い方や資料の調査方法ばかりでなく、多元文化論系室のパソコンを利用した検索方法の指導もします。大学院への進学希望者がいれば、四六騈儷文による漢文訓読の基礎についても指導します。４年生の春学期には、各学生のゼミ論の内容を勘案しながら、日本の文献を読解します。毎年の夏休みには、国内で全員参加のゼミ合宿を行い、研究に対する関心を深めます。また、適切な時期に、中国・台湾・香港・韓国など漢字文化圏への研修旅行を実施します（都合により国内になることもあります）。過去には、北京・台湾・香港・深圳・広州に研修旅行を実施しました。ただしこの旅行は、全員参加を強制するものではありません。

本ゼミ卒業生の就職も好調ですが、日本文学・美術史・東洋哲学などへの大学院進学者が毎年のように出ているので、希望者に対しては専門的なアドバイスを行います。ゼミ論の内容は、専門性の高いものから、妖怪や漫画まで、さまざまです。要は、学問的な手続きがきちんとしていれば、ゼミ論には何を書いてもかまいません。このゼミに興味があれば、上記のメールアドレスに、遠慮なく質問してください。

広州研修旅行（2019 年1月）

【学生から一言】

思想文化論ゼミの魅力は「学問の基礎を学べる」ことです。講義では、漢文や古文の一言一句について典拠となる資料を探して注釈をつけ、各々資料を作り発表します。慣れないうちは一つの言葉の注釈をつけるのにも四苦八苦し、資料を求めて歩き回り、やっとのことで見つけた資料が全く役に立たないことも往々にしてあるなど、苦労の連続ですが、次第にどの建物のどこに何の資料があるか、未知の単語への対処法、自分の必要とする情報を得るには何をすべきかなどが自ずと分かるようになります。これらは漢文や古文の研究の基礎であると同時に、学問をする上での基礎でもあり、論文を書く際は勿論、大学院進学やその後の研究にも必ず役に立つと思います。

また、当ゼミには「オフ」があります。学期の節目には打ち上げが、夏合宿や研修旅行では、史跡参観やゼミ論発表会、そして夜にはバーベキューやカラオケ飲み会などが行われ、大変盛り上がります。この「オフ」によって、当ゼミはとても和気あいあいとした楽しいゼミにもなっています。

その性質上、当ゼミは、漢文及び古文や日本の歴史･文化を研究テーマに据えたい方に特にお勧めですが、勿論それ以外のテーマをやりたい方も大歓迎です。どんなテーマでも、先生からは真摯かつ懇切丁寧な助言をいただけます。ぜひ一度ゼミ見学にいらしてください。皆様にお会いできることを楽しみにしています。（2019 年卒業　木村健太）

新入生歓迎会（2018 年 4 月）

# 中東・イスラーム文化論ゼミ

佐藤　尚平
shohei.sato@waseda.jp

## 中東の歴史と文化

　このゼミは、文化構想学部で唯一、中東・イスラームについて専門的に学ぶことのできるゼミです。中東・イスラームの歴史や文化について、本格的にかつ楽しく学ぶことを目的としています。

　西アジア・中東は古代メソポタミア文明、エジプト文明の展開した地域に重なり、古代ギリシャ・ローマ文明、地中海世界とのかかわりも深いものです。またユダヤ教、キリスト教、イスラームなど諸宗教の揺籃の地でもあります。中世の『アラビアン・ナイト』や「十字軍」、マムルーク朝やオスマン帝国などの歴史、さらには現代の中東情勢から「アラブの春」まで、中東やイスラームを知らずしては語れない事柄が、この世界には数多く存在します。

　イスラームということでいえば、中東をはるかに超えて、中央アジア、アフリカ大陸、南・東南アジア、さらには日本や欧米・中南米のムスリム社会などについても考察の対象となります。アフリカの歴史も当然含まれます。また、このゼミの名に「中東」を冠しているのは、イスラーム教徒(ムスリム)だけでなく、キリスト教徒・ユダヤ教徒なども共に中東社会を形成しているという認識にもとづいています。彼らも含めた社会を、総体として捉えます。ですから、人口比でマイノリティーである東方キリスト教徒も、研究対象となります。さらに、中東に大きな影響を及ぼしたイギリス帝国などにかんする研究も、このゼミでは歓迎します。

　そしてなにより、中東への旅行や食事、映画や文学など、その文化全般を本格的に愉しんでみませんか？ そのための情報提供は惜しみませんし、ゼミとしての実践も予定しています。「アラブの春」の研究も大歓迎です。

　このゼミでは国際的な自覚をもって活躍したいと思う皆さんに、イスラームや中東にかんする専門的な知識を授けます。そして、ときには海外からのゲストを交えてゼミを行います。とにかく、伝えたいことがあって、このゼミをしています。ぜひ、主体的に参加してください。ゼミは真剣に、呑み会は楽しくやりましょう。

**このゼミと深くつながっている中東・イスラーム研究コースの公式 Twitter《https://twitter.com/fustat_2014》や Facebook ページ、HP も存在します。**

**行事**　海外からのゲストによる講演会、アラブ料理店などでのコンパ、留学送別会、自由参加で中東関連のコンサートや映画鑑賞、中東からの留学生と交流などの行事を計画しています。

**留学**　このゼミは新設されてから 5 年目ですが、すでにトルコ、カタール、パレスチナ、クウェート、スペイン、ブルネイ、英国、ヨルダン、アラブ首長国連邦などへの留学を果たしています。今後もいっそう、留学の支援に力を入れてゆきたいと思います。なお、左利きが多いのもゼミの特徴です。

**語学の重要性**　言語の学習も重要です!これは苦痛を伴う義務と考えずに、新たな世界へのパスポートを得るための貴重なチャンス　ととらえてください。たとえば、1 年生から、アラビア語などの講義を受講することをお薦めします。

**研究テーマの例**

・アラブの日常生活、都市史、宗教史など、歴史研究。・「アラブの春」や中東の民衆運動。・イスラーム思想史研究やスーフィズム研究。
・中東に広く展開してきた宗教マイノリティーについて(コプト・キリスト教、シリア正教などの東方教会やユダヤ教など)
・エジプトなど中東の文化研究、ポピュラー・カルチャー研究 ： 映画、演劇、音楽、文学、アート一般、食事など。
・中東の民族マイノリティーの研究 ： クルド人、トゥアレグ人など。　・イスラーム考古学研究
・現代アラブの庶民生活。　・日本のムスリム研究、中東から世界への移民研究。
・欧米で活躍する中東系アーティストの研究(文学・演劇・映画など)。
・中東の聖者崇敬研究、その他の中東を対象とした人類学的研究。
・アフリカ史 ： とりわけ、西アフリカの歴史、例えばマリやトンブクトゥの研究。

**過去 3 年間のゼミ卒業生の主な就職先**

・商社、旅行会社、大学院進学、流通関連、食品会社、メーカーなど。

## 《JCulP》
## Seminar on Performing Arts Culture in Japan

高井　詩穂
stakai@waseda.jp

In this *zemi*, we approach Japanese culture from a global perspective, through aspects of visual culture, performance, and performing arts. "Performing arts" here are not limited to only performing arts in a narrow sense, such as Japanese theater, film, dance, music, festivals, etc., but also include literature, religion, folklore, art, history, thought, customs, and contemporary society, if considered through the concept of performance. For example, folklore could be approached from the perspective of oral storytelling and communal productions and rituals. We could approach each topic from the perspective of the performer, the audience, or both. Students will learn to incorporate various modes of media in their research, and are encouraged to set their own topics relatively freely. We welcome students with diverse interests who will stimulate each other throughout the two years of *zemi*.

The current students' interest include: theater, architecture, art, music, religion, advertisement, yokai, and so on.

## 2019 年度 担当 講義・演習(参考)

**講義（多元）**
**・日本史世界史再発見（オムニバス授業）　　　木５時限（春期）**
**講義題目：「悪所」の歴史：江戸の芝居町と遊郭をめぐって**
江戸時代、芝居町や遊郭は「悪所」と呼ばれ、訪れる人が身分を忘れてつかの間の別世界を楽しむ場として、また文化の中心地として、栄えていきました。その発展の裏には幕府の規制や弾圧を逆手に取って生まれた独自の文化があります。この講義では、「悪所」の発展の歴史を、古地図、浮世絵を含む芝居関連史料、文学などを通してご紹介し、江戸時代の「悪所」の役割とその変遷について考えます。

**専門演習（多元）**
・Japan's Living Theater (TCS quarter seminar)　**月４時限・木１時限（春クォーター）**
能、浄瑠璃、歌舞伎のテーマや手法と、近現代の映画や小説などへの影響について考察する。
This course examines traditional Japanese theater, *nō*, *jōruri*, and *kabuki*, and how they are adapted into modern stories, movies, and contemporary performances.

・Ghosts and the Supernatural in Japanese Culture (TCS quarter seminar)　**火２時限・金２時限（秋クォーター）**
古典から現代までの日本文化を幽霊や妖怪というテーマから分析する
This course examines representations of ghosts and supernatural elements in various genres of classical to contemporary Japanese culture, such as myths, anecdotes, theater, art, film, *anime*, and urban legends.

・Adaptations of Classical Japanese Literature (TCS quarter seminar)
**月２時限・木２時限（冬クォーター）**
日本古典文学の近現代の翻案作品を取り上げ、翻案の様々な可能性について考える。
This class examines adaptations of classical Japanese literature in and out of Japan. We pay attention to how the Japanese past is revisited and reimagined in various time and genres, and for what purposes. The class explores themes such as genre conventions, authorships, the mode of reception, and media.

## 《JCulP》 Seminar on Japanese Popular Culture and Media

ピタルク パウ
pitarch@waseda.jp

This seminar will offer a space for students to explore popular culture and its expression in various media through Japanese history. Students will be encouraged to think not only about the formal features of Japanese popular fiction, music, manga, video games, etc., but also about their social and historical implications, as well as their role in the modern global circulation of ideas and entertainment.

## 2020 年度 担当 講義・演習

**講義（多元）**

・日本史世界史再発見（オムニバス授業） **木５時限（春期）**

題目：「ポップミュージックに見るスペイン現代史」

内容：ポップミュージックはどんな政治的な役割を果たせるのでしょうか？「王家侮辱」・「テロ煽動」などの理由で、アーティストの表現の自由を制限すべき場合があるのでしょうか？スペイン内戦（1936 - 1939）から現在までのスペイン現代史を顧みて、大衆音楽の政治的な重要性を一緒に考えてみたいと思います。

**専門演習（多元）**

・Japanese Mystery Fiction（TCS quarter seminar） **月２時限・木２時限（春クォーター）**

物語構造としての「謎解き」の特徴を分析しながら、推理小説においていかに近代社会が問題化されてきたかを検討する。

This course will explore the development of mystery fiction in Japan, focusing mostly on its literary form, but considering also its presence in other media (film, TV, manga, etc.). We will consider both the formal characteristics of the genre (such as the different techniques creators have deployed to create suspense), and also its potential for social and political commentary.

・Global Science Fiction（TCS quarter seminar） **月４時限・木４時限（秋クォーター）**

グローバル SF が人間と科学技術の関わりをいかに描いてきたかという点に注目する。

This course will examine science fiction as a genre that engages with our experience of the modern world. We will consider how, by purportedly narrating the future, science fiction provides a rich language to think through very present issues, and allows creators to play out fears and fantasies about the relationship between humans and technology, and their impact on our planet. Through a close reading of literary and visual texts, we will think about the particular ways each medium contributes to the creation of a shared imaginary that goes beyond specific works. Special attention will be devoted to works of science fiction produced in Japan and East Asia.

・Youth Culture in Modern East Asia（TCS quarter seminar）**火２時限・金２時限（冬クォーター）**

近現代東アジアにおける表象としての若者像について検討する。

This course will examine how young men and women have been imagined and represented in modern East Asia, through an analysis of literary works from the late nineteenth century to the present. As a period of change and uncertainty, youth has worked as a rich space to discuss issues of modernity, identity, sexuality, family relations, and commodity culture. We will think about the connections of the personal and the political, paying attention to how coming of age stories gain an allegorical dimension within the process of nation building and modernization. We will examine how modern consumer culture has fetishized the idea of youth through fashion and music. We will also pay special attention to constructions of adolescence and youth as a period of idealism and purity, and to the many forms the idea of youth has been mobilized for political activism throughout the century.

# 《JCulP》
# Seminar on Diversity in Japanese Culture

由尾　瞳
hyoshio@waseda.jp

Diversity has become a key theme in the study of Japanese culture in recent years across disciplines. In this zemi, students will reexamine various aspects of Japanese culture through the umbrella theme of diversity, exploring areas of study such as literature, film, art, history, contemporary society, media, and subculture. The zemi seeks to complicate the view of Japanese culture and tradition as exclusively unique and uniform, and instead aims to uncover the complexity of connections with other cultures and traditions. Furthermore, students will learn to challenge the myth of Japan as a monolingual and homogeneous country, and discover instead a heterogeneous and culturally diverse Japan, consisting of a wide range of multilingual, multicultural, and multiethnic communities.

## 2020 年度 担当 講義・演習

**講義（多元）**

**・日本史世界史再発見（オムニバス授業）　　　　　木５時限（春期）**

**講義題目：「新しい女」の誕生：アメリカと日本における女権運動の歴史**

19 世紀末から 20 世紀初期にかけて登場した「新しい女」「モダンガール」とは、どのような女性を指したのでしょうか？この講義では、世界中の大都市において社会現象となったこれらの新しい女性像に注目し、特にアメリカと日本に焦点を当てて、当時の女子教育、女権運動、女性の社会進出などについて、フェミニズムの視点から捉えなおした歴史を探っていきます。

**専門演習（多元）**

・ **Contemporary Japanese Fiction in English Translation (TCS quarter seminar)**

**火２時限・金２時限（春クォーター）**

英訳で読む現代日本小説：英語圏を中心に流通している、現代日本文学の多様性を探る。

This course offers students an opportunity to read contemporary Japanese fiction in English translation, published in a variety of international print and online venues. Through a close study of the fiction as well as the publication venues, we will explore the diverse themes and styles of contemporary Japanese literature and how selected works have been introduced and circulated in the global market.

・ **Women's Coming-of-Age Narratives (TCS quarter seminar)**

**月２時限・木２時限（秋クォーター）**

女性の成長物語というテーマを、グローバルな視点から探求する。

This class will explore coming-of-age narratives by a diverse group of women writers from around the world. We will consider how some themes are shared across cultures, while other are tied to their cultural contexts. Through the course, we will explore how coming-of-narratives have represented women's lives, constructed or deconstructed ideals of girlhood and womanhood, and played a role in the development of feminism.

・ **Global Tokyo (TCS quarter seminar)　　　　火４時限・金４時限（冬クォーター）**

東京を「グローバル都市」として捉え、ジェンダー、階級、国民意識などに注目しながら、種々多様なメディアの分析を通じて探求する。

This course explores the modern city of Tokyo by examining a variety of material produced in Japan and overseas, paying particular attention to issues of gender, class, ethnicity, and national identity. We will explore how Tokyo has developed and changed over time from the standpoint of global and comparative perspectives, and understand the interplay between traditional & modern, and global & local.

※新型コロナウイルスの影響により変更があります。詳しくは、メールにて論系室までお問い合わせください。

# ＩＣＣＯ　文化交流創成コーディネーター

多元文化論系では、2017 年度より**「ICCO　文化交流創成コーディネーター資格制度」**を導入しました。論系で指定された科目を履修し、短期集中セミナーに参加することで、この資格を取得することが出来ます。

詳しくは、多元文化論系ホームページに掲載している資料をご確認ください。また、多元の学生はコースナビから詳細を確認することが出来ます。

## ICCO　文化交流創成コーディネーターとは

ICCO：Intercultural Coordinator 「文化交流創成コーディネーター」

「新たな時代や社会づくりに向けて、人と人、人とモノ、コトとコト、モノとモノ、地域と地域、地域と世界など、文化と文化の＜あいだ＞に
つながりをつける力を備えた人材」 ― 日本国際文化学会 HP より

## ICCO資格制度とは

日本国際文化学会が認定（2015 年度～）

「これからの時代が求める人材像は、特定の文化の枠組みの中で自分は何者かと考える人から、枠組みを超えて行動する人へ。国際文化学会は、様々な場で新たな文化の交流や創成に携わろうとする人を、インターカルチュラル・コーディネーターとして認定します。」― 日本国際文化学会 HP より

## 資格の取得方法

1. 参加認定大学の学部・学科・系・コース等が指定する科目を選択履修する【A】
2. 短期集中セミナーに参加する(自費)【B】
3. 提出期間内に【A】の成績証明書と【B】の修了報告書類および審査手数料を国際文化学会へ提出
4. 審査を経て、「文化交流創成コーディネーター認定証」が交付される

## 期待できること

- 多元文化論系指定科目の履修により、グローバルな視点から、地域交流、文化間交流の過去と現在について、幅広く学ぶことができる
- 短期集中セミナーを通じて、日本各地から集まってくる学生たちと、大学横断的な交流が持てる（優秀者は、翌年の日本国際文化学会フォーラムにおいて発表する機会あり）
- 将来、国際交流、文化交流にかかわる職業を目指す際のキャリアアップにつながる

## 論系ホームページ

http://www.waseda.jp/trns_cult/

- 論系関係のイベント･講演会の情報を随時アップしています。
- 卒業生が昨年度提出した「ゼミ論題目一覧」が現在公開されています。
先輩たちがどのような勉強をしているか参考にしてみて下さい。
- 論系やゼミの紹介、イベントの報告や、留学情報など、
盛りだくさんのコンテンツとなっています。

## 論系　Twitter

https://twitter.com/TagenBunka

- 論系の最新情報をコンパクトに発信しています。
イベントの告知などの情報も得られますので、ぜひフォローしてください。

## 2018 年度　学位記授与式・卒業パーティー

新型コロナウイルスの影響により、論系室開室状況に変更があります。
最新の情報は、多元文化論系の HP より確認してください。

## 多元文化論系室

33 号館（高層棟）9 階 906 号室

月～金　12:30～18:30（水曜日のみ 14:30～18:30）

03-5286-2979

sdc.admin2007@gmail.com

http://www.waseda.jp/trns_cult/

＊ 開室時には助手が在室しています。お気軽にご相談やお問い合わせにいらしてください。